

## 『恋花』

「(自転車で) 花ちゃーん！ 花ちゃん！ 待ってー！ 花ちゃんー！」

「(トラックの窓から顔を出す) 翔太くーん！ 元気でねー！ また会おうねーー！」

「花ちゃん！ 違うんだー！ 待ってー！ これを、これを受け取ってーー！」

「元気でねー！ ありがとー！ またねーー！」

「違うんだ花ちゃんー！ 待ってー！ 止まってー！」

その1時間前。

「おお、翔太くん。上手になったじゃないの。よくできてるわよお。そのこけし。うちのお爺さんが見たらびっくりするわねえ。それはどんな気持ちの表情なの？ なんの表情をしているこけしなの？」

「もう分かってんだろ？ 戸田のばあちゃん。僕の気持ちだよ。僕の花ちゃんへの気持ち。『花ちゃんが好き』って気持ちをこの表情に表したんだよ」

「あら、そう。へえ。(犬に) ジローちゃん、この翔太くんが作ったこけしは、『花ちゃんが好き』っていう表情をしてるんだって。まあいやらしい。(犬に) ねえ？ いやらしいわねえ。

『うん、いやらしい！』

「いやらしいことないだろ。素直な気持ちだよ。ばあちゃんは分かっててそういうことを言うんだからなあ」

「まあでも、翔太くんが自分でこけしを作りたいだなんて、あたしもびっくりしたわよお。もううちのお爺さんもないから。良かったらうちを継いでくれないかしら？」

「いやだよ。僕は花ちゃんのために作るだけだもん」

「あら、そう。やっぱりそれは、今日が花ちゃんのお引越しの日だから、最後にプレゼントするのかしら？」

「え？ 今日が引越し？」

「なに驚いてんの。え？ 知らなかったの？」

「知らなかった…。い、いそいで完成させなきゃ！」

3時間前。

「おう、翔太やないか。どないしたんや。こんな公園のベンチに座り込んで、なにをしてんねや」

「関西弁、下手ですねえ！ こんにちは。ちょっと悩んでるんです」

「悩み？ なんやねんな。それやったらわしになんでも相談してみたらどうないなっとりまんねん」

「耳ざわりだなあ。好きな子がいるんです。で、この前、その子がこけしが好きで集めてるから、一つプレゼントしてみたんです。そしたら、思ったより反応が薄かったんです」

「さよかあ。そんな恋の悩みなんやったら、わしに聞いてくはなはれや。なんたってわしの嫁は奥さん会の会長やねんから、PR活動、つまりアピールやったらお手のもんや」

「どうしたらいいですか？」

「こけしやろ？ 買ったこけしやからあかんねん。思いを伝えるんやったら手づくりや。自分の手でこけしを作ってみたらよろしいんとちゃいますの？ ほな、さいなら」

「…。ところで誰なんだよ、あの人。でも、そっか。手作りか。戸田のばあちゃんのところに行ってみようかな」

8時間前。

「おはようございますー。回覧板を届けに来ましたー」

「あ、おはよう、翔太くん。ありがとね。ジュースでも飲んでく？」

「え、いいんですか？ お店のものじゃないんですか？」

「いいのよ。うちの喫茶店はあんまりジュースは出ないからさ。コーヒーとカレーばかりだから。賞味期限切れる前に、飲んじゃって」

「ありがとうございます。でも他にお客さんもいるのに、いいんですか？」

「いいわよ。別に。あの人、一人だけだもん。なんだか東京から来た有名な脚本家さんらしいわよ」

「え、すごい。どんなの書くんですか？」

「サスペンスが多いって言ってたかしらね。本人に直接、聞いてみたら？」

「え、いいのかな。…。あのう」

「ここで聖徳太子が登場して…。え？ どうしたの？ このへんの子？」

「あ、はい。このお店の隣りに住んでるんですけど。有名な脚本家さんなんですか？」

「ええ、まあね。今はサスペンスが多いんだけど、昔は恋愛ものばかり書いてました。〇〇とか、〇〇とか、そういう名前のドラマ、知らないかな？」

「あ、全然しりません。恋愛もの、も書くんですか？」

「まあね。ちょっとした日常の、公園のベンチから始まる恋とかね、そういうやつ」

「へえ」

27時間前。

「…。…。…あ！ なんでこんなことしてんだ！ 思わずこんなの書いちゃった。落葉を集めて『はな』だなんて、花ちゃんの名前を書いちゃったよ！ もうだいぶキテるなあ僕も。はあ。花ちゃん、やまびこが返って来ないって言ってたなあ。この場所はどうしてやまびこが返ってくる人と来ない人がいるんだろう。不思議だよなあ。花ちゃん、自分はやまびこが返って来ないって落ち込んでたなあ。『花ちゃん、好きだあ～～！』（耳に手を当てる）駄目だ。僕も返って来ないや。サトルとかユウキは返ってきてたのに。もし僕が、やまびこのフリして花ちゃんの声返してあげたら、花ちゃん喜んでくれるかな。やっっほっほっほおお。（やまびこのフリをする練習をする）」

34時間前。

「まだかなあ。来ないなあ。待つてんのになあ。全然来ないぞお。早く来てくれー。待つてんだからー。キンメタラオウー！ 出て来てくれー」

「あれ、翔太。なにやってんの？」

「あ、〇〇さん。いや、キンメタラオウを探してんの？」

「はあ？ そんなのこの沼にいるわけないだろ？」

「え、なんで？」

「なんでって。そんなのこの沼に伝わるただの伝説だろ？ ガセ、ガセ」

「えー、そうなの？ キンメタラオウを見つけたら花ちゃんが喜ぶと思ったんだけど」

「なに言ってんだ、お前」

※自由に。

168時間前。

「はい、はい、ジローちゃん。…緑助がさっきやりました」

※うまい表現があれば。

26280時間前。

出会いのシーン。花ちゃんに一目惚れする翔太。

※自由

1時間後。

「(運転してる父) 花。それ、なんだ？」

「ん？ こけし」

「それは見たら分かるけど。なんであの子は必死で花にそれを渡しに来たんだ？」

「(クスッと) なんでだろうね。でもこの表情を見てたら、ちょっと分かる」

「なにが？」

「ううん。なんでもない」

10年後。

再会のシーン。やまびこを使う。

※自由。

おわり

